

武士の娘とウィルソン一家



釘島 浩子

杉本鉞子の単行本

A book of Etsu Inagaki Sugimoto

- 1 9 2 5 年 A Daughter of the Samurai
- 1 9 2 6 年 With Taro and Hana in
Japan
- 1 9 3 2 年 A Daughter of the Narikin
- 1 9 3 2 年 A Daughter of the Nofu
- 1 9 4 0 年 Grand mother Okyo



Etsu Inagaki Sugimotoの作品の 抜粋 (アメリカ編)

- Pioneers in Self-Government 1931
ワシントン、ジェファークソン、エジソン、ヘンリーフォードなど12人の内の1人として

Etsu Inagaki Sugimoto----World Citizenship

- A Book of Great Autobiography 1934
ヘレンケラー、ジョセフコンラッド、

世界ノンフィクション全集 8

筑摩書房 1960 (日本編)

- ソーニャ・コヴァレフスカヤ S・コヴァレフスカヤ A・C・レフラー共著 野上弥生子 訳
- 自伝 マリー・キュリー 著 木村 彰一 訳
- わが母マリー・キュリーの思い出 イレーヌ・キュリー 著 内山 敏 訳
- ブロンテ姉妹 阿部 知二 著
- 武士の娘 杉本 鉞子 著 大岩 美代 訳

『越佐が生んだ日本的人物』

第三集

- 「杉本鉞子—『武士の娘』を書いた作家

1967

年

渡 善子

『偉大な開拓者たち』 アメリカ中高生読本

よき世界市民であるということは決してその人物の愛国心の欠如を意味するものではない。むしろそれは単なる愛国心より“高度な愛国心”というべきであり、自分自身の見解同様に他人冷静寛容な態度をさすのである。

『武士の娘』のあらすじ

- 明治の初め、日本の雪国、長岡で少女エツは江戸時代の生活を守る大家族と生活している。13歳で親の決めた男性と婚約する。それから花嫁修業が始まりアメリカで貿易商を営む。未来の夫の為に英語を学ぶ為に上京する。長岡から江戸から東京という名前が変わり西洋化が進む都会でエツはアメリカ人女性の経営するミッションスクールに入学する。言葉や習慣の違いに戸惑いながら、エツは新しい文化、宗教に触れ、キリスト教徒になる。
- いよいよ夫との結婚のために向かい女一人で船と列車を使ってアメリカに渡り、道中親切なアメリカ人達に世話になりながら夫の住む町に着く。事前に手紙を頂いていたアメリカ人ウイルソン夫妻の家庭で結婚の世話をし、日本式的なキリスト教の式を挙げる。ウイルソン夫妻の親戚で未亡人のウイルソン夫人と親しくなり、ウイルソン未亡人の家を訪れ夫婦一緒に未亡人の家で生活するようになり未亡人を「アメリカの母上」として慕う。娘二人を産みアメリカの生活にも慣れた頃、突然夫が死亡する。エツは娘二人を連れて日本に帰国する。
- 日本の家長制度の下では母であっても娘のことはすべて夫の親戚の判断を仰がなければならぬ。それでもエツは夫の遺言として京都ではなく東京で娘達に教育をする許しをもらおう。長岡のエツの母も上京し、東京での新たな生活が始まる。活発なアメリカ生まれの娘達も言葉や着物、立ち振る舞いなど少しずつ日本に慣れてきてほっとするも、ある日子供達の遊びの中でアメリカ国家を歌っているのに気づき、無邪気にアメリカを懐かしがる娘達の真の生活の場と教育を考えるようになる。長岡の母が死に葬式を済ませた頃、娘の養子縁組の話が出る。親族会議の席でアメリカ人女性からの手紙と協力を頼り力に戻りもう少し娘達に教育を続けることを許す。アメリカへ戻れると喜ぶ娘達を連れ、再びエツはアメリカへの荷造りをする。



さまざまな『武士の娘』

1. 雑誌Asiaに連載されたA "Samurai's" Daughter I~X。1923年12月号から1924年4月号及び、1924年8月号から12月号の10回に渡り連載。
2. 1925年Doubleday, Page社出版の単行本 *A daughter of the Samurai*。
3. 目黒真澄訳『北越新報』の新聞に1929（昭和4）年から連載された『武士の娘』。
4. *A Daughter of the Samurai*の大岩美代訳。
1943（昭和18）年長崎書店。1960（昭和35）年『世界ノンフィクション全集8』に阿部知二解説で一部抜粋。1967（昭和42年）筑摩叢書97として出版、1994年ちくま文庫として出版され現在も単行本として出版。
5. 山室善子の取材に杉本鉞子が思い出を語り『婦人之友』に連載された「"武士の娘"が見たアメリカ」1月号、2月号、3月号。

翻訳された『武士の娘』



- 1930年 フランス語
- 1933年 イギリス語
- 1934年 スウェーデン語
- 1935年 ドイツ語
- 1937年 フィンランド語
- 1937年 デンマーク語
- 1937年 ポーランド語
- 1939年 ルーマニア語

鉞子の住む場所による6分類

- 1期1872(明治5)年~1884?(明治17?)年 新潟県長岡時代:1872年[明治5年6月20日(陰暦)]稲垣平助(元長岡藩筆頭家老)と金の六女として生まれる。
- 2期1884?(明治17?)年~1898(明治31)年 東京ミッションスクール時代:海岸女学校を1889(明治22)年卒業、東京英和女学校1893(明治26)年(現在の青山学院大学)卒業。浅草新谷町の美以美小学校で働く。
- 3期1898(明治31)年~1909(明治42)年 アメリカオハイオ州時代:宗教学研究の旅券(下付け表)にて渡米。シンシナティ在住オービッド・J・ウィルソン(ウィルソン教科書出版社社長)宅にて京都出身杉本松之助(貿易商)と結婚。ミセス・ジョン・ウィルソンとミス・フローレンス・ウィルソン宅にて生活する。長女花野、次女千代野を産む。
- 4期1909(明治42)年~1916(大正5)年 帰国し東京での生活:長女花野、次女千代野を連れ東京で生活。夫松之助シカゴで死亡。普連土女学校や青山女学院にてデントン、デビス、スペンサーら万国婦人矯風会本部派遣員の通訳。日本婦人矯風会青年部部長。
- 5期1916(大正5)年~1927(昭和2)年 アメリカオハイオ州からニューヨークでの生活:米国婦人矯風会日本代表として出席。シンシナティ(ウィルソン社長婦人宅)からニューヨークへ引っ越す。新聞、雑誌へ原稿を送り掲載される。コロンビア大学日本語・歴史講師。紐育日本婦人会会員。Japan Society会員。長女、花野の結婚。
- 6期1927(昭和2)年~1950(昭和25)年 帰国:次女千代野結婚。英語で執筆を続け本がアメリカで出版される。東京や神戸の娘達の家で晩年を過ごす。青山女学院校友会役員。戦後アイケルバーガー中將(シンシナティ出身)ら進駐軍とも交流。1950年肝臓癌で東京白金清岡暎一宅にて死亡。



第一期 長岡藩の武家の教育

- 鉞子は明治生まれで、六女。両親はほぼ完全に江戸時代の常識を持つと予想。
鉞子の母は毎朝お歯黒をし、御殿言葉を話していた。
 -
- 結婚の習慣や武家のしきたりを検討。
- 結果、武士の娘の中の結婚感や子育ての感覚は当時の日本女性にはありえない表現が見られた。



二期 東京におけるミッション スクール

- ・ 義務教育の進みつつある段階でまだ整備されていない日本の環境
- ・ アメリカ人女性宣教師が教育と宣教の為に日本まで来るアメリカ側の背景とその目的の確認。

士族は収入の道が絶たれ、生活の変化により多くの変化が生じた。鉞子の父も旅館などの商売を始めるが破産し、一家離散。鉞子は母の実家に母と弟と住み女中のように働いていた。

寄付で運営される寄宿舍付きのミッションスクールは学費や生活費の援助を受けることが可能な場所であったと同時に聖書を中心とする英語教育が中心で宣教師を助けるための実践的な英語力が養われたと推測できた。

1883年春、梅子は海岸女学校で臨時に教えるよう請われ、これを受けた。ミッションスクールは「貧しい人たちが娘をやるところ」で、校内では「盗みもひんぱんに行われる」といった否定的な印象を抱いていたが、引き受けたのである。

二期

1898年渡米と女性クラブの 大会

- 鉞子は渡米直前まで浅草の美以美教会の小学校で教師として在籍
- 旅券番号は「学629」で渡航主意は「宗教学研究」ビザ発給は1898年4月
- 津田梅子、石井筆子の二人の女性が内閣から任命を受け日本代表として6月のGeneral Federation of Woman's Clubsに出席
- 洋装か和装かの選択をしたとされる祖母の不在

外務省・外交資料館に残る旅券

外国旅券下付表(三)
外務省・外交資料館蔵

明治三年庚辰分
初進米時

旅券番号	氏名	所年	航路	航先	発券日
字六二九	稲垣 敏	明治三年	北米	百十口	五月九日
出四	宮崎 政吉	明治三年	北米	百十口	五月九日
第八六六	磯村 良康	明治三年	北米	百十口	五月九日

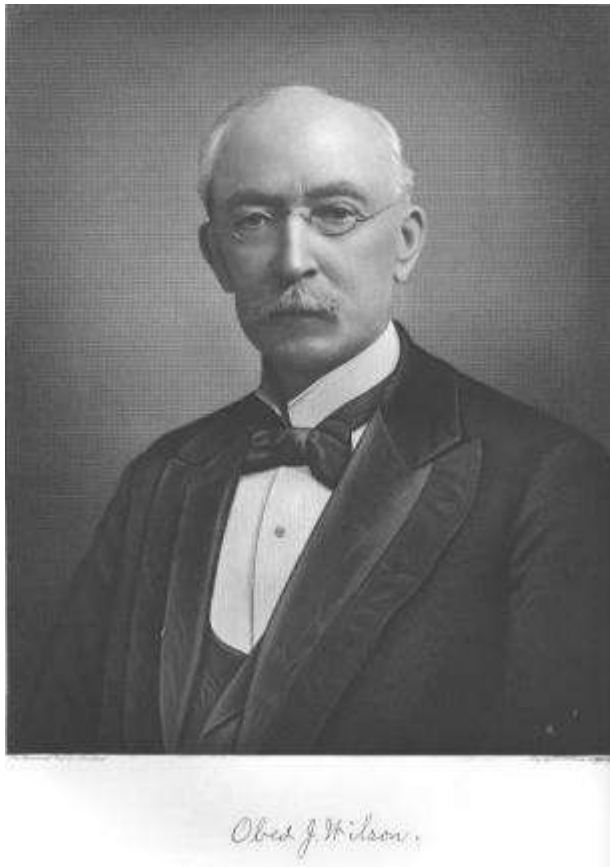
大正五年一月
三月迄の届け分

旅券番号	氏名	身分	本籍地	年齢	保証人	航路	航先	発券日
三五九二	小川 政平	学生	北米	二十	父	北米	百十口	一月
三五九四	成田 子嗣	学生	北米	二十	父	北米	百十口	一月
三五九七	村中 敏	学生	北米	二十	父	北米	百十口	一月
三五九八	橋本 敏子	学生	北米	二十	父	北米	百十口	一月
三六〇二	和田 市天	学生	北米	二十	父	北米	百十口	一月

大正九年届け分

旅券番号	氏名	身分	本籍地	年齢	保証人	航路	航先	発券日
三五四四	中澤 潤三	学生	北米	二十	父	北米	百十口	一月
三五四六	杉本 敏	学生	北米	二十	父	北米	百十口	一月
三五四八	杉田 豊初	学生	北米	二十	父	北米	百十口	一月

Obed J. Wilson(1826~1914)



- Bingham, Maine, in 1826
- ウッドロー・ウィルソン大統領と先祖は同じ
- Cincinnatiの学校で文学を教えながら法律家を志すが目の病気になり勉強を断念。
- 1853 Mr. Smithの会社に就職し、主にIndiana Wisconsinなどに旅をしながらthe books of the Eclectic Seriesを売り目の病を治す。
- the McGuffey First Readerを1863に作り、主に文学的才能を発揮し、会社の経営に加わる。
- アメリカおよび世界中で使われる教科書会社となり、富と名声を得る。

アメリカンブックスカンパニー の建物

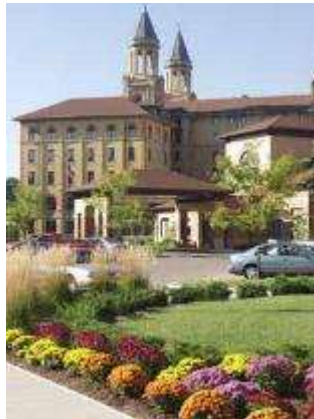


Amanda Marian Landrum Wilson (1832~1926)



- Obed J Wilson の妻
- 学校の教師
- 夫と共に世界漫遊旅行に再三同席
- 鉞子を自宅に招き結婚式を行う
- メゾジストエキスコパル派の牧師の娘
- 多額の寄付をエキスコパル教会に行い老人ホームを建てる。

Cincinnati



- 「アンクルトム」 ストー夫人
- Farmer's College
- P&G (アイボリー) 石鹼工場
- ロックウッド製陶工場
- タフト大統領
- アメリカ唯一のユダヤ教の大学
- College Hill Methodist Home for the Aged
- Obed J Wilson House
- Mrs. John Wilson & Miss Florence Mills Wilson House



Mrs. John Wilson

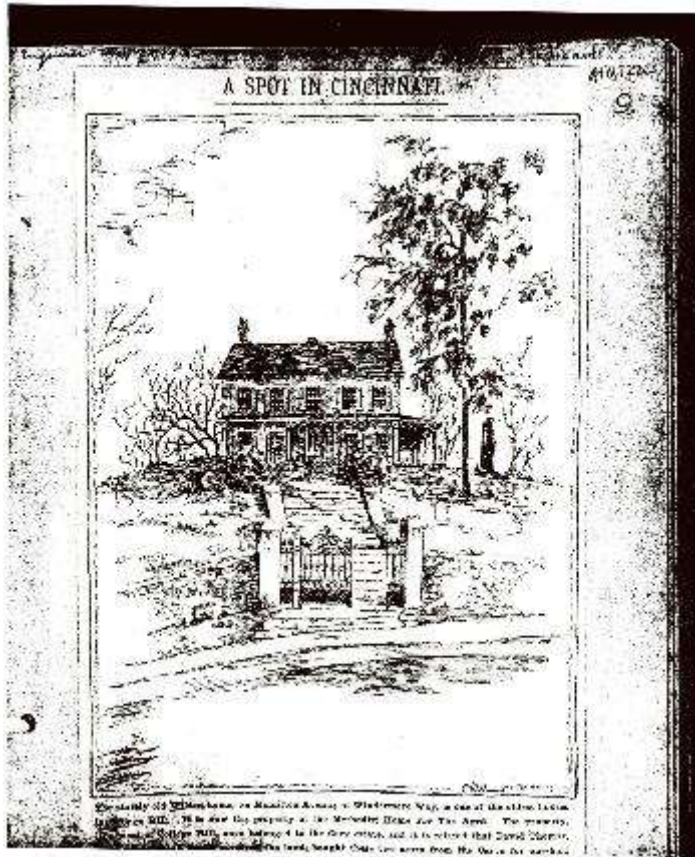
- リンカーン大統領時代インディアナ州において郵便局長を勤め、「東部の銀舌」と弁舌を謳われたObedの兄の妻。夫亡き後、晩年を過ごした自宅をそのまま保ちたいと娘Florenceと二人で10エーカーの屋敷に住む。
- 純白のレースの襟飾りのついた裾を引く黒い絹のお召し物に白いレースのキャップをかぶり、樹陰で編み物
- 父親は南部綿花栽培主でいち早く奴隷を解放した南部の貴族出身

Florence Mills Wilson

- 鉞子と結婚式の介添え人として出会う
- College Hill に未亡人となった母と一緒に住み、鉞子夫婦を招く
- 鉞子の母に招かれ単身で日本の長岡にホームステイをし、日本的生活を体験する
- 一生独身で、鉞子の夫死亡後も鉞子の娘二人を案じ、来日、家族として一緒に日本とアメリカで生活する
- デポー大学卒業
- シェイクスピアなど演劇活動の趣味を持つ



Florence Mills Wilson 宅にて 生活する杉本家



Young Etsu Inagaki came to Cincinnati in 1898 to marry Matsuo Sugimoto, who owned a downtown Japanese import store. Clifton publisher Obad Wilson hosted the couple, who married in their home. Rookwood Pottery artist Kataro Shirayamadani was the best man, and Wilson's niece Florence was the maid of honor. The Sugimotos lived the Wilson's College Hill summer home, now the site of Twin Towers, and their daughters Hanako and Chiyo attended College Hill School. When Matsuo died suddenly eight years later, Etsu returned to Japan. She wrote about her life in College Hill in her memoir *Daughter of a Samurai*. (Photograph copyright the Cincinnati Historical Society.)

Mrs. Wilson 母娘 と杉本一家

Line No.	Year	Name	Relationship	Sex	Age	Month	Year
10	1854	William	Head	m	m	Nov	1854
11		Ann	Wife	w	f	June	1854
12		Esther	Daughter	w	f	June	1855
13		Jacob	Son	m	m	July	1857
14		Levi	Daughter	w	f	Aug	1859
15		Joseph	Son	m	m	July	1890
16		Minnie	Daughter	w	f	May	1890
17		John	Son	m	m	June	1895
18	1895/1896	Agnes	Daughter	w	f	Aug	1896
19	1895/1896	Wilson Sarah	Head	w	f	Oct	1898
20		Florence	Daughter	w	f	Apr	1853
21		Virginia	Daughter	w	f	Dec	1866
22		Esther	Daughter	w	f	June	1877
23		Hannah	Daughter	w	f	May	1899
24	1878/1879	Wakusan	Head	m	m	Aug	1856
25	1878/1879	Caraher Chas	Head	m	m	Mar	1861
26		Maggie	Wife	w	f	Jan	1866
27		Edith	Daughter	w	f	Dec	1886
28		Nellie	Daughter	w	f	Dec	1888

The Nippon Cincinnati Directory 1900

0



- Nippon (The), M. Sugimoto, propr.; Japanese were, 522 Race
- Sugimoto M. propr. The Nippon, Race, res. Collge Hill

Mrs. Wilson と Miss Florence Wilson との共同生活

- もっとも一寸の間は市内のアパートに居りましたが、夏の暑い頃であったので1, 2週間泊まりにきてはどうかと云われるままお邪魔に参ると、そのまま12年間も留まることになって了つたのでございます。始めのうちはお世話になって居りましたが、後には私どもがお世話申上げるやうになりました。全くこのお二人は親身ならぬ母と姉とになって下さったのであります。

P131 「“武士の娘”の見たアメリカ」 『婦



Mrs. Wynne と Mrs. Wilson

- 1923年12月から連載の雑誌Asia
Samurai's Daughter
 - 1924年8月号にはMrs. Wynneと表記
 - 1925年単行本A Daughter of the Samurai
Mr. Wilson & Mrs. Wilsonと記載
- 親戚のMrs. Wilsonは「アメリカの母上様」
として登場するもMiss Florence Mills Wilsonは
登場しない

帰国数年後の夫の死と鉦子の母校における校友会活動参加の記録

- 1908（明治41）年7月第10号の校友会報の住所は千駄ヶ谷隠田四
- 1909（明治42）年第12号では

杉本ゑつ子 昨年十二月二令嬢を伴ひ帰朝され目下府下隠田に住せらる滞在せらるるは両三年にて再び渡米さるる由に聞く

と近況報告があり9月の青山女学院校友会の臨時総会や10月12日祝節寄付金募金委員会に出席している。

- 1910年6月4日の校友会総会に出席
- その一カ月後の7月26日に夫松之助はアメリカで死亡

『武士の娘』のフィクション とノンフィクション

- 鉞子の発表した多くの本に共通するものはアメリカで生活する日系人への誤解を解くための日本文化紹介であり、厳密な意味での自伝作品ではない。
- 雑誌に連載されていたその時期はアメリカで初の女性参政の大統領選挙や、排日移民法など女性や日系人にとって多くの課題が突きつけられていた時期
- ピクチャーブライド禁止法やアメリカ生まれの日系の子供への社会的差別への静かなる抵抗メッセージ